

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							3.3
Q1 室内環境				0.40	-	-	2.8
1 音環境			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音			3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	—		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能	—		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-	-	3.0	-	
1.3 吸音	—		3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境			1.8	0.35	-	-	1.8
2.1 室温制御			2.6	0.50	-	-	
1 室温	—		2.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	—		3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性	—		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御	—		1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式	—		1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境			3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用			3.6	0.30	-	-	
1 昼光率	事務室の外壁側に連窓の開口部を設ける		4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口	—		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	—		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策			2.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	—		2.0	1.00	-	-	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御でき、無線調光可能とする		5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境			3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	ほぼ全面的にF☆☆☆☆建材を使用する。		4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気			2.6	0.30	-	-	
1 換気量	30m ³ /h人以上を確保する。		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	—		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮	—		1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理			4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視	—		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体を禁煙とする。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.6
1 機能性			3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ			2.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	—		1.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応	—		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たす計画とする。		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性			4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	執務室には十分な天井高と開口部を確保する。		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	各階にテラスを計画するとともに、複数階に自販機を設置する。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画	コンセプトに基づき素材やサイン計画を決定、検証している。		5.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	トイレ内の壁を化粧ケイカル板とするなど、清掃性に配慮した。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃室・ランドリールームといった清掃関連諸室を計画している。		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.6	0.30	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	二次設計用重要度係数を1.25として計画している。		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	—		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔	床:ビニル床シート・タイルカーペット、壁:PB壁に塗装、天井:化粧PB		4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種(排水:VP→C、給水:SUS→B、通気:VP→C)		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備	—		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備	井水利用をしたマンホールトイレの計画をしている。		4.0	0.20	-	-	
3 電気設備	非常用発電機は水損の恐れのない屋上に計画している。		4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAとする。		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	—		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
	3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	1階は階高4.5m、その他の階は4.0mとして計画している。	5.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		事務室の床用積載荷重は3,900N/㎡としている。	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	OAフロア、乾式二重床を計画する。	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	屋上に十分な設備スペースを計画する	4.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	3.5
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		茅ヶ崎市まちづくり審議会上に景観の計画を諮って進めた。	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	1階部分にピロティを計画し、設備機器は屋上設置とする。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI 0.73	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		通風塔を計画し、重力換気を促進する。	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化		ZEB ready適合の仕様とした上で、太陽光パネルを設置する。	4.4	0.50	-	-	4.4
	集合住宅以外の評価			4.4	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	年間エネルギー消費量の目標値を提出予定	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	過半以上を自動水栓とする。便器は節水型とする。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	路盤にRC-40、植栽土壌改良材にパークたい肥を用いる。	4.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	3.4Fを原則OAフロアや乾式二重床とし再利用に配慮した。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.6
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を39%削減する。	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	十分な量の駐車・駐輪台数を確保する。	4.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.50	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	景観まちづくり審議会上に照明計画について諮った。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-		-						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	-				○	○	-	○		○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		○	○	○	○		○		○			○		-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	○	-	-						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	○	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	9.0		-	-	2.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	-	1.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		-	1.0	3.0	2.0	-	2.0	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	1.0	2.0	-	2.0	1.0	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-		-	-						
2.3.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床	
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH	
昼光率	2.1%				
自然換気有効開口面積率	-				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/m ²							
天井高	2.75 m								
リフレッシュスペース	13.1%		レストスペース	0.0%					
想定耐用年数	-	年							
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	20 年								
想定必要間隔	-	年							
階高	4 m								
壁長さ比率	-								
床荷重	3900 N/m ²								

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

外構緑化指数		40%		建物緑化指数		11%									
空地率		56%		水平投影面積率		32%		地表面対策面積率		26%		舗装面積率		41%	
BPI/BPI _m		0.73		断熱等性能等級		等級4 相当									
自然エネルギー直接利用量		0 MJ/年m ²		採光を満たす教室数		-		採光を満たす住戸数		-					
				通風を満たす教室数		-		通風を満たす住戸数		-					
				太陽光		47.5kW		太陽熱等		0kW		蓄電池		53.0kW	
BEI/BEI _m		再エネ有		0.39		無		0.48		オフサイト再エネ有		-		-	
一次エネルギー削減率		再エネ有		無								-		-	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%			
特定調達品目	再生骨材（RC-40）エコマーク商品	パークたい肥	自治体指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%			
オゾン層破壊係数（ODP）	地球温暖化係数（GWP）			
オゾン層破壊係数（ODP）	地球温暖化係数（GWP）			
オゾン層破壊係数（ODP）	地球温暖化係数（GWP）			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	49% 隣棟間隔指標Rw 0.27								
地表面対策面積率	38.0%	屋根面対策面積率	11.0%	外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	1,084㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	138.5 m	基準高さHb	16.03 m				
緑地	637㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡